

国内研修報告書

8月31日から9月2日にかけて秋田県藤里町に訪れ、藤里町にある社会福祉協議会が行っている「きらりカリキュラム」というプロジェクトに参加した。プロジェクトを元に社会福祉協議会の方々と地元住民の方々と交流を行いながら藤里町の現状や課題、今後どう発展させていくかなどを知ることができ実りのある国内研修となった。

「きらりカリキュラム」藤里町が今行っている事業に参加し藤里町を知ってもらうプロジェクトである。今回この「きらりカリキュラム」では以下のことを行った。

まず一つ目は「デイサービス訪問」である。藤里町は現在年々高齢者が増加しているとは対照的に、若者は学校や仕事のために他の地域や他県に行ってしまうため少子高齢化が激しい。その為高齢者の方々を支援、手助けする人材が減ってきている。それを防ぐために藤里町社会福祉協議会では、協議会が保有する建物の隣にデイサービスセンターを設け、日々高齢者の方々の面倒を見ている。デイサービスを訪問した際、デイサービスを利用している高齢者の方と交流する機会を設けさせていただいた。家族の人が仕事に行っている間にこのデイサービスを利用している人が大半を占めているのだろうかという僕の予想とは違い、一人暮らしの高齢者が非常に多く驚いた。日々面倒を見てくれる環境、人がいて支えてくれることに感謝している人もいれば、デイサービスを利用するのではなく一人暮らしでも家で生活ができる環境がほしいという人も多くいた。また、このデイサービスセンターの隣には「ぶなっち」というブナの木でできた建物があり、家で生活するのが困難な人がぶなっちの部屋を借りて居住生活を行うことができる。

2つ目は「こみっと」である。こみっととは、病気などの様々な事情により引きこもり生活を余儀なくされた若者たちを社会復帰させるための手助けを行う事業である。コミットでは主に日々の日常生活（食事作り、掃除、他人とのコミュニケーションなど）を行えるための訓練を寮で行い、社会復帰するために、寮に隣接しているレストランでうどんやそば、マイタケキッシュなどを製造し販売している。コミットでは、自分の年と近い人もいれば30、40代の人もいた。うどんやそばを販売するために四国に修行しに行き腕を磨いた人たちが多くいたため、味も非常においしかった。また、コミットで働いたり生活を行っている人たちは、レストランで働くだけでなく、地域の祭りの手伝いを行ったり冬には近隣住民とともに雪かきを行ったりもしている。このように引きこもりの若者たちを支援する態勢がしっかり整えられておりひきこもりの方々の支援を日々行っているが、課題もある。こみっとを利用している若者が社会復帰するのに多くの時間を要し、コミットを利用しても社会復帰がなかなかできない若者もいる。その課題を解決するためにこみっとは日々課題と戦っている。

3つ目は「独居高齢者のお宅訪問」である。僕は今回伊藤セイさんという方のお宅の訪問し交流させていただいた。伊藤さんは一人暮らしをしている期間は長いですが、作物を育てたり料理をするのが趣味で、近隣の人と毎日会うため日々のさみしさはなく、楽しい日々を送っているとおっしゃっていた。しかし、買い物ができる所が家から遠く頻繁に買い物に行くことができなかつたり、冬になると雪が多く積もるため雪かきをするだけで1日が過ぎてしまうなど多くの困難がある。

4つ目は「北部地区の方々と交流」である。藤里町の北部は秋田県の中でも雪が多く降る豪雪地帯として有名で、毎年冬になると数メートルもの雪が積もり雪かきなどが行われる。この北部地区は周りにスーパーやコンビニといったお店がなく、車30分以上かけて買い物に出かけなければならず、冬になると雪をかいてからでないといけないため非常に生活が困難な場所である。また、ここ数年空き家が増加し、高齢者や独居している高齢者なども急増しているため、雪かきを行うことができない人などが増加しお金を払って買い物や雪かきを頼まなくてはならず、年金だけの生活が非常に困難になってきている現状がある。今回は夏だったためゆきかきのお手伝いとかはしなかったが、そのような苦労話が聞けて貴重な時間だった。冬に雪かきのボランティアを募っているそうなので今度は参加してみようと思う。

5つ目は「FujisatoREC」である。藤里町では現在他の地域や県からアーティストやプロの絵描き師、デザイナーなどの方々が集まり、藤里町をアートの町にして活性化させようという動きがある。その事業のうちの一つに「FujisatoRec」があり、僕は今回それに参加させていただいた。この事業は藤里町のいいところや魅力的な所、全国の人に藤里町の伝えたいところを3分程度のムービーにまとめ、ネットにその動画をアップロードし、アップロードされたムービーの中から順位をつけ上位に選ばれた人には商品を授与するという事業である。商品には藤里町の特産品がもらえるだけでなく、藤里町への交通費往復分贈呈や空き家が2年間無料で使える権利などがある。このようにして皆をプロジェクトに参加させてムービーを制作していく中で自分たちの肌で藤里町の良さや魅力を感じてもらおうというのが狙いである。ムービーを作っていく中で多くの住民の方と交流をすることが出来たり、今まで出会ったことのない絶景に出会うことができ非常に貴重な体験ができた。藤里町を全国の人に知ってもらおう面白い企画だと感じた。

以上5つのことを「きりりプログラム」で体験させていただき、自分の肌で藤里町の良さや魅力を感じることができた。少子高齢化が激しく進み日々の生活に支障が出ることも多く生活することが困難な人も多くいたり、もろもろの事情で引きこもり生活を余儀なくされてしまった人もいたり、魅力や良さなどがいっぱい詰まった素晴らしいまちだが認知度が低いためにあまり周りに藤里町の良さが伝わらず、人口流出してしまったりと藤里町は多くの課題を抱えているが、今回の国内研修で感じたことは、そういった課題を社会福祉協議会や地域おこし協力隊の人たちのみで改善するのではなく、地域の人たち全員でこうした課題を解決し協力し合いながら生活している姿を多く目にし感銘を受けた。自分た

ちが生まれ育った藤里町を守り抜いていく、そういった強い気持ちが感じ取られ素晴らしいまちだと感じた。今回の国内研修では多くのことを学んだが、この訪問だけで終わらせるのではなく、ボランティアや国内研修といった形で何回も藤里町を訪れ住民との関係を築きつつ、より良い藤里町を形成していくための手伝いを行っていければいいなと思った。